

中学校・高等学校 英語教員対象セミナー

実践的な英語力の習得に繋げる授業と
TOEIC Bridge® Testsの活用

2021年8月20日(金) オンライン開催

基調講演

新学習指導要領(外国語)への理解を深める 3つの視点と言語活動

武蔵野大学 教育学部 教育学科 特任教授 江原 美明 氏



■ 新学習指導要領でも目指すゴールは コミュニケーション能力の育成

私は高校の英語教員、教育センター指導主事、短大教員を経て、県立の研究研修機関で先生方の研修を担当してきました。学習指導要領改訂にも関わった経験を基に、本日は新学習指導要領の3つの評価の観点に触れながら、今後の授業のヒントをお伝えしたいと思います。

例えば、進学校の先生であれば受験指導と4技能・発信力をどう両立するか、英語が嫌いな生徒を教える立場の先生であれば動機付けや基礎英語力不足に悩みを抱えていらっしゃるのではないのでしょうか。加えて、新教育課程における定期テストやパフォーマンステストをどうするかについての悩みや、改革したくても同僚の協力が得られないという方もいると思います。

こうした悩みや問題は尽きませんが、私たち教員は日々の授業を頑張るしかありません。教員として授業を頑張ることで、生徒のやる気や周りの先生の協力につながっていきます。

具体的に何をすればよいかというと、生徒に英語の基礎技能、スポーツでいえば足腰を鍛える部分を身につかせた上で、より内容に意識を傾けて理解・表現する癖をつけさせるということです。英語の文法・語彙は大事ですが、そればかりを意識すると読むときに和訳をしているだけで一体何を言おうとしているのかが分からないということになります。発信力という点でも、話す内容が思い浮かばないと話せない、書けないということになりかねません。

新しい学習指導要領でもゴールは以前と変わらず「コミュニケーション能力の育成」です。具体的にコミュニケーション能力というと、4技能5領域を思い浮かべられる方が多いと思います。大学生や高校生の現状を見ても、

SpeakingやWritingといった発信力は、授業でもなかなか時間が取れないので慣れていないということがあるかと思いますが、実はListeningやReadingでも「語彙・表現を瞬時に認識できない」「日本語に置き換えても本当は理解できていない(わからないまま暗記している)」といった課題があるのでとは私は感じています。

■ 英語力の中身の3つの観点を 意識した授業づくりを

では、どうするべきかを新学習指導要領の3つの観点から考えてみましょう(資料1)。新学習指導要領では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つを英語力の中身と捉えています。「知識・技能」の技能とは、単語を知っているだけではなく、聞いたり読んだりして瞬間的に分かる、会話で使える、簡単な文を書けるといことです。また、高校の場合は単に文法的な正確さだけではなく、語彙を正しく選択する、英語表現の適切さも求められます。

「思考・判断・表現」は、例えば聞くこと、読むことという概要・要点・詳細・意図を目的に応じて情報を捉え、自分なりに理解するという、一捻りの思考や判断が必要になります。やり取りや発表、書くことという、相手に応じて情報を選択・整理し順序立てるといった判断が求められます。簡単に言うと、読んで分かり、言いたいことを整理して表現することができるかということです。

最後の「主体的に学習に取り組む態度」ですが、これは前向きな姿勢、やる気です。この3つが英語力の中身であり、これらを意識しながら授業を組み立てることが大切だと考えています。

(資料 1)

The three assessment perspectives help us decide what to focus on.
 (観点の説明は高等学校新学習指導要領に基づく)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声・語彙・表現・文法・言語の働き →理解を深めている。 →適切に活用できる技能を身に付けている。	目的・場面・状況に応じて、[L/R] 概要・要点・詳細・意図を的確に理解したり、[S/SP/W] 適切に[内容を選択・整理・順序立てて]表現したり伝え合ったりしている。	文化理解、聞き手、読み手、話し手、書き手への配慮をしながら、主体的、自律的に取り組んでいる。(粘り強さ+自己調整力)
英語がきつたりすくりに使えるか(正しく速く)	情報や考えを整理・統合・表現できるか(自分の判断と言葉で)	活動・学習に前向きか(協力しながら)

■ **語彙を知っている=知識、瞬時にイメージできる=技能**

この「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について、言語活動を使って評価するとき、具体的にどうすればよいかを TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests (以下、TOEIC Bridge L&R) や TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R) のサンプル問題などを使って紹介していきたいと思います。

まずは、Listening における「知識・技能」です。資料 2-a をご覧ください。読み上げた単語を 2 択から選ぶ問題です。ペーパーテストに書かれた単語の意味を選ばせるのは知識ですが、音声を聞いて瞬間的にイメージできるのが技能になります。例えば、(5) の「an outlet」と聞いて、電源コンセントよりもまずショッピングモールをイメージする生徒が少なくないのではないのでしょうか。資料 2-b は音声かどの絵についての説明なのかを選ぶ TOEIC Bridge L&R の問題です。単語を見て日本語が思い浮かぶ、これを「知識」とすると、この問題のように聞いた音声を瞬間的にイメージと一致させるのが「技能」になります。

(資料 2-a,b)

a

Students should be able to connect the sounds, words, and images quickly.

【Listening / 知識・技能】

- a. 家 b. 部屋
- a. 公園 b. 図書館
- a. パラシュート b. 靴
- a. ほこりを払う b. 雑巾がけをする
- a. 電源コンセント b. 出口

b

TOEIC Bridge® Listening & Reading Sample Test

TOEIC L&R にも写真を見て、4 つの音声の中から適切なものを選ぶ問題があります。ここでも同様に言語知識が技能として身につけているかをテストすることができます。このように、画像と音声を一致させたり、画像を見せて自分の言葉で説明させたりすることは大変よい言語活動だと思います。

■ **Reading は日本語としてではなく内容を意識して理解させる**

次に Reading における「思考・判断・表現」です。4 技能というといアウトプットに焦点がいきがちですが、私が 10 年間英語教員向けのリーダー研修を行ってきた経験から言いますと、Reading の指導にも工夫が必要だと感じています。読むということは、日本語で理解することではなく、目的や場面、状況に応じて書き手が何を言おうとしているのかを理解することです。内容に意識を傾けることが大事で、あまり文型を気にしていると結局何を言おうとしているのかまでたどり着かない場合が多いのです。

資料 3 は、テキストメッセージのやり取りを読み、その後想定される発言を選ぶ TOEIC Bridge L&R の問題です。単にやり取りを訳すのではなく、メッセージに散在する情報をつなぎ合わせ統合して解答を導き出さなくてはなりません。こういった力を定期テストで測る際には、教科書と同じ文章を使う場合は、文の並べ替えなど再度よく読むことを求めるよう出題方法を工夫する、初見の問題の場合は内容を読んでタイトルを選ばせる問題などがよいのではないのでしょうか。また、「pass this on」のように教科書には載っていないけれど実用的な表現が出てくるのもネイティブスピーカーが作成する TOEIC Program ならではのようです。このように、文脈に応じて語彙の意味が異なることも様々な例文を通じて教えていきたいものです。

(資料 3)

Students should be able to get the big picture and explain what they've read in their own words.

【Reading / 思考・判断・表現(概要・意図)】

Questions 83-84 refer to the following text-message chain.

83. What will Kostas probably do tomorrow?

(A) Visit his family
 (B) Meet some friends
 (C) Go to the office
 (D) Stay at home

84. Select the best response to Kostas' message.

(A) "It went very well."
 (B) "I hope you're better soon."
 (C) "Tell me what you think."
 (D) "All right, I'll do that."

TOEIC Bridge® Listening & Reading Sample Test

■ 発信力は短時間の積み重ねで育成 Listen and Retellもおすすめ

2022年度から「論理・表現」という発信力に特化した科目が始まりますが、現実的にはProductionに十分時間を割くことは難しいかもしれません。だからこそ、ちょっとした時間をうまく活用して発信力を鍛える必要があります。

例えばSpoken Interactionは、Small TalkやConversation Questionsが瞬発力を求める「知識・技能」、考えながら内容を構築していくDiscussionやDebateが「思考・判断・表現」に関わってきます。この「知識・技能」に関する活動は、生徒たちに馴染みのある話題で何度も繰り返させるなど、かなり充実させる必要があると考えています。ある学校では、毎回授業で2つトピックを与えてチャットをさせたところ、数ヶ月後には生徒たちの流暢さがかなり向上したそうです。

特に、時事的な雑談の中で出てきた表現などは覚えやすいのではないのでしょうか。「病気を克服して東京オリンピックに出場したある競泳選手は、主治医から『出口のないトンネルはない』と言われて頑張ってきたそうです。では、『出口のないトンネル』は英語でどう表現するのか」というようなやり取りを常にしていると、生徒たちは内容を考えながら英語を使うことができていくはずですよ。

中学校における新学習指導要領に対応した学習評価の観点に関する資料を見ますと、例えばやり取りの評価について大まかに言うと、「知識・技能」は言語使用の正確さ、「思考・判断・表現」は与えられた条件が含まれているかといった内容的な適切さを見ます。そして、「主体的に学習に取り組む態度」は教員によるなんとなくの評価ではなく、しっかりと取り組んでいるかを具体的な活動場面で見ることになります。もちろん、各学校の事情に即して「知識・技能」だけでやってみたり、条件を減らしたりといった実行可能性を考慮する必要があります。これまでに様々な学校で実践されてきたルーブリックを調べた上で、ご自身または自校なりにアレンジしていくのがおすすめです。

Spoken Productionについても、いくつかの方法をご紹介します。「知識・技能」に関するものとしてはまず、文章を理解してから行うReading Aloudがあり、内容を考えながら読むことが大切です。Talking to yourself in Englishは、先生方の英語力向上にも効果的です。先生ができるようになったら、ぜひpersonal anecdotesとして今度は生徒にListen and Retellさせてみましょう。場面があれば「思考・判断・表現」に関わる内容になります。こうした問題は非常におす

すめの言語活動で、定期テストなどにも使えると思います。

■ Writingは文法とともに 英借文の姿勢を教える

Writingについては、あえて1日1文から始めるのがおすすめです。資料4はTOEIC Bridge® Writing Testの並べ替え問題です。並べ替え問題は文法を学ぶだけでなく、英借文の仕方を学ぶ上でも有効だと考えています。この例文を少し変えれば、自分のことが言えるようになります。このような活動を通して、文法を確認しながら読んだこと、聞いたことのある英文を少しずつ変えて自分のものにしていく姿勢の大切さも生徒たちに伝えていってほしいと思います。

(資料4)

Students should be encouraged to use expressions they've heard or read before.

【Writing / 知識・技能(一日一文から始めてみる)】

Directions: Drag the words in the boxes to form an appropriate sentence that is grammatically correct. The first part of the sentence is provided for you. You have 60 seconds to complete this task.

Question 2:

Mr. Scott late traffic so will be a lot of

There is _____.

TOEIC Bridge® Writing Test

■ 生徒をいかにやる気にさせるかが 英語の授業成功のカギに

最後に「主体的に学習に取り組む態度」についてですが、英語の授業の成功は生徒をいかにやる気にさせるかどうかで決まります。頑張っている先生に教わる生徒は自然と頑張ります。先生の熱意は鏡のように生徒に反射しますから、先生方のやる気を高めるヒントを紹介します。先生の理想像について私が現在教えている大学の学生に聞いてみたところ、「何か一つ優れたところがある」「いつも余裕がある(生徒の声を拾える)」「楽しい、話がおもしろい」「こういう学級にしたいという目標を共有できる」などと答えてくれました。

また、座右の銘を英語で共有するのもおすすめです。「The only person you can control is yourself.」は、生徒をコントロールするのではなく、自分が授業を工夫したりすることで生徒の興味を引き出そうというふうにも解釈できます。目の前の生徒に教えられる人は、先生方において他に代わりはいません。ぜひ「You can do it.」「Only you can do it.」と唱えながら頑張ってください。

*本文中のTOEIC L&R、TOEIC Bridge L&R、TOEIC Bridge Writing Testのサンプル問題は、巻末に掲載したQRコードからご確認いただけます。

事例発表

自己理解からの確かな英語力を育成する 授業づくり —TOEIC Bridge® Testsを活用して—

東京大学教育学部附属中等教育学校 英語科教諭 榎尾 文雄 氏



■ 新学習指導要領で大切な2つの視点 生徒中心の場面を設定した言語活動

本日は、中学3年生の「英語3」と高校3年生の「外国事情」の授業を例に、自己理解をキーワードとした英語力の育成について紹介していきたいと思います。

本校は、「未来にひらく自己の確立」を教育目標に据え、豊かな人間性、自主的な思考と判断力、のびやかな表現力という3つのキーワードを掲げています。さらに、これらを実現させるために、ことばの力、論理の力、身体・表現の力、関係の力、情報の力という5つの力が必要だと考えています。この5つの力は新学習指導要領にも通じる部分があるかと思えます。

また、本校は中学高校の6年間で2-2-2制に分けています。1、2年生は基礎期、3、4年生は充実期、5、6年生は発展期としています。教科学習と総合的な学習をリンクさせているのが特徴で、6年生の最後には1万6,000字以上の卒業研究を書き上げます。学びの多様性としてICTにも力を入れており、設備も充実させています。

2021年度から中学校でも新学習指導要領がスタートしましたが、私は以下の2つの視点に重点を置いています。1つは、新中学校学習指導要領解説外国語編の86ページにある「生徒が授業の中で『英語に触れる機会』を最大限に確保することと、授業全体を英語を使った『実際のコミュニケーションの場面』とすること」です。生徒が中心となる授業を心掛け、言語活動を行う際には場面設定を重視しています。例えば道案内の場合、どこで誰に道案内をするのかによって話す内容も変わってきますから、生徒たちと状況を確認することはコミュニケーション活動を行う上で欠かせない視点であると考えます。

■ 生徒自らが目標を立てて取り組む メタ認知の力も大切

2つ目は、同解説97ページの「単に繰り返し活動を行うのではなく、各学校で設定した学習到達目標を踏まえ、生徒がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して学習に臨むことができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示す必要がある。こうしたことにより、生徒自らが学習の見通しを立て、主体的に学習に取り組み、言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について、自ら学習のまとめを行ったり、振り返りを行ったりすることが促される」点です。このことについて私は、「教員が立てた目標に対して生徒が自分なりの目標を立て、それに向かってどのように取り組むのかということが大切だ」と捉えています。そしてこれが、新学習指導要領でいうメタ認知の力だと考えます。

■ 英語に触れる機会充実のための 多読と多聴の実施、入出力の量の確保

英語の習得にはとても時間がかかると言われています。例えば TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R) で900点以上取るには、諸説ありますが、必要な英語学習時間は3,000時間以上、最低でも2,200時間以上と言われています。中学高校合わせて英語の時間は概ね790時間ですから、900点以上目指すのであればその3倍もの学習時間が必要になるということです。このように学習時間が限られている中で、本校では生徒が英語に触れる機会を確保するため、「多読の実施」「多聴の実施」「インプット量とともにアウトプット量の確保」の3つを大事にして授業に取り組んでいます。

多読については、世界の児童文学や新聞記事、雑誌などを活用し、グループで質問に答えたり、ジグソー法を用いた

り、場面に応じた台詞を考えさせたりと生徒たちが飽きないようにしつつ取り組んでいます。多聴では、教科書は少なくとも5回は聞かせています。ディクテーションをしたり、フレーズで聞かせたりと様々な形で実施しています。そしてインプット量とともにアウトプット量の確保としてペア活動やグループ活動のほか、ディベートやエッセイも行っています。

■ 授業の組み立てで最も重要なことは 単元目標に対応する言語活動の設定

このうちディベートでは、調べる、まとめる、討論するという一連の流れをそれぞれ1時間ずつかけて行っています。例えば中学3年生のディベートのテーマは、教科書の単元「Animals on the Red List」から「Technology vs Nature」に設定しました。しかし生徒たちはこのときがディベート初挑戦となるため、まずは一般的な「Dogs vs Cats」から始めました。ここで育てたい力は、「社会問題について書かれた文章を読み、読んだことを基に考え感じたこと、その理由などを伝え合うことができること」です。

授業を組み立てるときには授業前、授業、授業後の3段階で考えますが、最も重要なのは授業目標や単元目標をしっかりと立てることです。その目標に合わせて、適切な言語活動を選んでいきます。今回のこの単元では生徒たちにやり取りをさせたいと考えていましたので、ディベートという言語活動を設定しました。

■ ルーブリックを通して 授業目標を生徒と共有

授業目標や単元目標を設定したら、次にルーブリックを生徒に提示して目標を共有します(資料1)。ルーブリックは数値的な尺度を含んでいるため、これを使うことでパフォーマンスの質を量的に表現することができると思います。

(資料1)

評価：話すこと [やり取り]			
目標：社会的な話題について、自分の意見や考え、その理由を述べ合うことができる ○「思考・判断・表現」については、以下の条件のどちらかを満たす。 条件1：自分の意見等について、1つ以上の理由とともに述べている。 条件2：相手の意見について、質問したり答えたりしている。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	自分の意見について理由等を2つ以上述べ、2つの条件のどちらかを満たしてやり取りしている。	自分の意見について理由等を2つ以上述べ、2つの条件のどちらかを満たしてやり取りしようとしている。
b	コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができる。	2つの条件のどちらかを満たしてやり取りしている。	2つの条件のどちらかを満たしてやり取りしようとしている。
c	bを満たしていない。	bを満たしていない。	bを満たしていない。

作成には時間がかかりますが、一番の利点は、生徒自身がこの単元では何をやってほしいのかがはっきりと分かり、学習に対して少しでも前向きになる点です。例えば「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と表裏一体で一体的に評価することになっていますが、一生懸命話そうとしている姿が見られた場合、「思考・判断・表現」はcでも「主体的に学習に取り組む態度」はbとするなど、異なる評価もできると考えます。加えて、誰が採点しても同一の結果が得られるという信頼性や信憑性、そして測りたい力がしっかり測れるかという妥当性も大切にしています。また、内容が多すぎると何を評価すればよいのかが分かりにくくなるため、評価する内容を絞って生徒に提示することも重要です。

■ 授業目標を基に 各生徒が自己目標を設定し評価する

授業では自己目標の設定を大切にしています。生徒たちは教員の示した単元目標から各自目標を設定し、自己目標の達成度を評価します。そして、自ら新しい課題を見つけて次のステップに進んでいきます。教員が何を教えるかという視点から、生徒が何を学んだかという視点へのシフト、つまり学習の質の評価がますます重要になってきています。そこで、生徒たちが自己目標を設定するときには独自の評価表を活用しています(資料2)。この評価表から生徒自身の授業への貢献度や頑張りなどの自己評価を確認し、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際に参考にしています。

(資料2)

評価：自己目標を設定する	
2021年 () 月 () 日	
単元の目標	
自己目標	
学習を通して考えたこと、新しくわかったこと	<input type="checkbox"/> ことができました。 <input type="checkbox"/> ことができました。 【自由記述】
次の授業への課題	
今日の授業への貢献度 (がんばり度) 英語使用度	☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

もう1つ、高校3年生の「外国事情」の授業を紹介します。この授業では主にプレゼンテーションやディスカッション、ディベートを行っており、あるときは「2020: A Lost Year?」をテーマにプレゼンテーションを行いました。中学生よりも求めるレベルは高まり、なるべく社会的な話題について扱い、

相手に分かりやすく伝える力を育成することを念頭に授業を行っています。

■ 自らの英語力を正しく把握するために TOEIC Bridge® Testsを導入

英語力向上には「目標の共有・自己理解」「自己目標の設定」「授業」「振り返り」の4つの視点が大事です。「目標の共有・自己理解」は先ほども説明したように生徒とともに目標を理解し、共有することです。その上でもう1つ重要なのが自己理解です。自分の英語力をきちんと把握した上で自己目標を設定し、授業を行い、振り返りをするという流れで私は授業を考えています。

この自己理解は新学習指導要領のポイントの1つのメタ認知であり、大事な視点だと考えています。自己理解の方法として外部検定試験を受けて自分の実力を知ることも1つではないだろうかと思入したのが、TOEIC Bridge® Listening & Reading Tests (以下、TOEIC Bridge L&R)とTOEIC Bridge® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC Bridge S&W)です。

TOEIC Bridge® Tests (TOEIC Bridge L&RとTOEIC Bridge S&W)を導入した理由を資料3にまとめました。1つは、生徒にとって易しく、やる気を引き出すものであるということです。また、授業内容がそのまま役立つ、さらに私自身は作問の参考にもなると考えています。様々な文章やスピーチをそのまま読解に使うのも1つの方法ではないでしょうか。また、TOEIC Bridge L&Rにはレストランでの注文など実用的な英語がよく出てきますので、実際のコミュニケーション能力を測ることができます。結果が合否ではなくスコアである点も、生徒たちから「自分の英語力が数値化されて分かりやすい」と好評です。このほか、世界共通のスタンダードで問題の質がとても高い、オーセンティックな英語が体験できるテストだと評価しています。

(資料 3)

TOEIC Bridge® Tests 導入について

- ・自己理解(メタ認知) 自分を知る
 - ← 生徒のやる気を引き出す
 - ← 授業内容がそのまま役に立つ
 - ← より実用性の高いもの
 - ← 合・否ではなく、スコアがでる
 - ← 世界共通のスタンダードのようなもの
(日本だけのものではない)

■ TOEIC Bridge® Testsを意欲的に受験 英語学習へのモチベーションも向上

生徒は在学中にTOEIC Bridge L&Rを2回受験します。2回のスコアを比較すると、2回目のスコアが高くなっており、意欲的に受験している様子が伺えます。また、TOEIC Bridge S&Wも希望制で年1回受験させています。

生徒たちからは「TOEIC Bridge L&Rは日常生活で使われる英語に重点が置かれていたので、日頃の勉強の延長で受けることができました」「どれだけ英語に触れてきたかという本物の英語力が問われているような気がしました。学内の自分の順位も分かるので勉強の励みになります」「普段の英語の授業でディベート、ペアワークで英語を話していますが、それがどれだけできているかを測る機会はなかなかありません。それをTOEIC Bridge S&Wで知ることができて、自分の英語力を実感できました」などの感想がありました。アンケートでは約9割の生徒が「受験後、英語学習のモチベーションが上がった」と回答しており、受験によってスコアはもちろん、生徒の自己肯定感も上がっています(資料4)。

(資料 4)

TOEIC Bridge® Tests 受験後の感想

- ・受験後、英語学習へのモチベーションが上がった
90.8% (109名/120名)
- ・受験後の感想
 - ・普段の授業の活動と同じような内容で、問題が解きやすかった。
 - ・意外にもスコアがいいことにびっくりした。自分が思っていたよりも話せたし、英文が読めた。
 - ・英文が他の検定と違って読みやすかったし、聞き取りやすかった。

■ 確かな英語力につながる道筋 現状把握と目標設定、動機付け

自己理解からの確かな英語力の育成には、現状把握が鍵であると考えます。外部検定試験をうまく活用して現状を正しく把握することが、適切な目標設定につながります。そしてそれが学習の大きな動機付けとなって、確かな英語力につながっていくのではないのでしょうか。TOEIC Bridge Testsは、日本の英語教育が目指すコミュニケーションを重視したものですし、生徒たちの自己肯定感を高め、現状把握と目標設定、動機付けという各段階に役立つものであり、導入して非常に良かったと思っています。

TOEIC® Programのサンプル問題については、IIBC公式サイトでご確認いただけます。

● TOEIC® Tests



TOEIC®
Listening & Reading Test

https://iibc.me/seminarreport_tlr_sample



TOEIC®
Speaking & Writing Tests

https://iibc.me/seminarreport_tsw_sample

● TOEIC Bridge® Tests



TOEIC Bridge®
Listening & Reading Tests

https://iibc.me/seminarreport_blr_sample



TOEIC Bridge®
Speaking & Writing Tests

https://iibc.me/seminarreport_bsw_sample



一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

【東京】〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL.(03)5521-5901
【名古屋】〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL.(052)220-0282
【大阪】〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL.(06)6258-0222

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.

本資料の無断転載・複製を禁ず (2021年10月)